

東京鷹桜同窓会会報

会 長 安部 浩(昭和36年卒)(新)

副会長 中島 コウ(昭和20年卒)

丸川 毅(昭和31年卒)

藤野 由美子(昭和43年卒)(新)

須藤 勝味(昭和46年卒)



安部 浩新会長

巻頭の言葉

東京鷹桜同窓会会長 安部 浩
(東京農工大学名誉教授)

平成7年から会長を務められた高橋俊龍会長の後を、小生が引き継ぐことになりました。長沼孝三初代会長から高橋正二第2代会長を経て第3代高橋俊龍会長に至るまでの約58年間の支部活動の歴史を振り返り、ご推挙して頂いた諸氏と支部活動の現状や課題について意見交換の機会をもちながら俄に勉強しているところです。

さて、今年の8月までのトピックスと言えば、「Yes we can」ですっかりお馴染みのアメリカ大統領オバマ氏の誕生、そして8月に日本に起こった「政権交代」劇でしょう。チェンジ(change)という面で両者は共通しています。一方で、豚インフルの変異といわれる新型インフルエンザ(A/H1N1型)の発生による世界的な感染拡大は人類をパンデミックの恐怖に陥れています。このように自然の変化、社会の変化の中で私たちは明日を生き抜くための知恵を学ぶ必要があります。皆さんの勇気と叡智、そして何よりも連携を密に情報を共有しながら多様な変化の中でも人生をエンジョイしたいものです。その一助になるよう役員一同微力ながら傾注して行きたいと思っています。会員皆様のご支援、ご協力を切にお願い申し上げます。

特別寄稿 一米沢興讓館高校同窓会東京支部会に出席して**東京鷹桜同窓会会長 安部 浩**

興讓館高校同窓会東京支部(神野(かんの)民夫 支部長)から記念講演会の案内が突如舞い込んできた。時は平成21年7月18日(土)、場所はホテルニューオータニということで、高橋俊龍会長のあとを引き継いでまもない私にとって、他校の同窓会の活動を知る良い機会と考え出席した。記念講演会の演題は、今や時の人となっている「天・地・人 直江兼続」、演者は郷土歴史家小山田信一氏、NHK大河ドラマ「天・地・人」放映実現までの様々な苦労話を織り交ぜながら直江兼続の人となり、米沢における上杉藩の基礎造りなどについて持ち時間を超えての熱弁でした。

講演会後の懇親会にも出席させていただいた。若い会員の姿がまばらで出席者数約120名のうち40、50代の参加者が20%程度にとどまり、還暦を迎えられた会員の方が大多数のようでした。東京鷹桜同窓会も同様であるが、若い会員の参加を促すにはどうするか、難しいし共通の問題に見えた。しかし、懇親会の方は盛会で活気にあふれ瞬く間に時間が経ち、そんな雰囲気の中を壇上で自己紹介を余儀なくされた。

東京鷹桜同窓会支部長として出席させていただいたが、神野民夫支部会長はじめ西村純先生(東大名誉教授・宇宙科学研究所名誉教授)、安部三十郎米沢市長、蒲生直樹校長(長井43年卒)、杉山恵美府中市景観審議会議員(東京農工大・亀山先生も同委員)はじめ多くの方々との情報交換する機会に恵まれた。加えて、「花回廊 ようざんろ一ど」をつくる会事務局の高橋米次氏が高橋俊龍会長の下で活動していると伺い驚きでした。数日後、高橋氏から沢山の関係資料が送られてきて、会の存在と活躍ぶりを初めて知ることができた。「花回廊 ようざんろ一ど」は首都圏在住の置賜出身者を中心に、趣旨に賛同する有志によって構成されるボランティア団体だそうですから、ご関心お持ちの方は事務局の高橋氏にお尋ね下さい。今年は満開の桜に余程縁があるのでしょうか。東京府中でソメイヨシノ、千葉南房総で頼朝桜、そして、今年はこれで見納めかと思っていたら長井の桜となった。梅津健治同窓会長、山田俊夫校長先生を表敬するため母校を訪れた4月17日、恩師水野多門先生から長井の桜の名所を案内するからというお誘いがあり、「ようざんろ一ど」長井の桜見となった。元長井工業高校校長高田裕之氏(南36年卒)運転の車に水野先生ご夫妻と私の家内までも便乗し、伊佐沢・久保の桜、西根・草岡大明神桜などエドヒガン系桜の名所数カ所を周り、そして五十川の満開のソメイヨシノを最後に、水野先生の名解説付き長井の桜の名所巡りを終えた。「ようざんろ一ど」は高島、米沢、南陽、川西、飯豊、小国、長井、白鷹を結ぶ置賜地区に「さくら」をはじめ多くの花々で埋め尽くす壮大な夢とロマンに満ちたプランだそうです。西根・草岡付近に立ち、東山・最上川方面を眺めたときの扇状地特有の傾斜をとる早苗ヶ原は実に美しい。この遠大なプランが終焉しここに再び立って観たときの光景を想像するだけでも素晴らしい。ご成功を祈念申し上げます。

最後に、以上が興譲館高校同窓会東京支部会に出席しての報告と感想ですが、初めての試みとはいえ、母校出身者に限らず置賜に所在する他校出身者に呼びかけ、置賜同窓会風の交歓会は支部間の情報交換や人的交流に計り知れないメリットがあるように感じた。このような機会を与えて下さった神野支部長はじめ関係各位に改めて御礼を申し上げます。

長井むがしばなし

♪ 坊やー 良い子だ 寝んねしな ♪

(長井地方の方言風物誌 西山のへつり (寺嶋芳子著) より)

きのこ狩り運動会

寺泉分教場では、年1回秋の味覚の茸狩りが始まる。朝もやが、十時頃まであたりをすっばりと包み、最高の天候を覗かせる。今日は茸狩り運動会。寺泉の役職のある親方衆、父兄、きのこ鑑別者二～三人・先生・生徒が一丸となって、一列横隊でぞろぞろ学校を出発、大沢部落の御殿原には大っけな五升がしき二個位、バケツ・箒・大根などが用意され、太い木でさぎっちょをつくり、周りにはむっしよが広く敷き詰められて、薪を切る人、拾う人、みるみる芝の山が出来て準備完了。一回り五～六人ずつ、大人達の指示に従い、原野、山などに出発。腰にぶらさげだはげごに茸と名のつく物は見つけ次第全部採る。時間が来るとお先達の人がピッピーを吹ぐと、ぞろぞろ引き上げ、様々な色形の茸が箆の上にぞくぞく開けられ、茸の鑑別の先生が一本ずつ念入りに選び出す。えぐち・さわふたぎ・まんじゅうだけ・もだし・からばちきのこ・たまには「しめじ」等、色んな名の茸が選り出された。

いよいよ根っこを取り、さらさら流れる澄んだ山水で綺麗に洗われ、きのこ汁が始まる。火がどんどん燃え、鍋から汁がこぼれ落ち、いよいよ煮えて来た。『みんな、そろそろ煮えたぞ。皆やけめしとお椀を出して食う準備しろ』と先生が合図。鍋のまわりは人々。木の杓子で大人達が一個ずつお椀に盛り始め、舌包みをうつ。うまい、うまい。こんがえに旨い物がまたとない。肉なて上品な物は全然入らなくとも旨い。茄子を入れると、「茸にあたらぬ」と茄子も少々入ったようだ。

先生が『みんな、一杯食って早くおがれよ』と言った。きのこ狩り運動会のあの茸の味が、何十年に一回通る御殿原が懐かしく、あそこできのこ汁食ったっけなあと、あの味が今だに思い出される。又、御殿原とは、どういういわれのある土地か、何時か調べてみたいと心に願っている昨今である。

子供等のとったきのこを下しらべ
毒がないかといとも慎重
輪をつくり 皆で食べるしたつづみ
さぎっちょに 大なべかけてきのこがり



◇事務局より◇

【活動報告】

平成20年

12月6日(土) 総会、懇親会を開催(も一吉)。(参加会員40名、お客様6名)

お客様:本校校長 山田俊夫様、本部副会長 沼澤ひろ子様(30年卒)、本部副会長 大森和子様(46年卒)、事務局長 丸川桂一郎様(53年卒)、長井市長 内谷重治様(49年卒)、川西町長 原田俊二様(50年卒)

平成21年

8月29日(土) 役員会 出席7名、学年幹事会 出席14名(計21名参加)(も一吉)。

【収支決算】

(平成20年4月～平成21年9月)

収入		支出	
繰越金	¥259,491	総会費	¥77,000
年会費	¥399,640	事務費	¥451,047
御祝金	¥40,000	旅費	¥30,000
本部より補助	¥65,000	税金	¥197
川野基金残金	¥2,430,000		
川野基金利息	¥25,000		
受取利息	¥1,002		
計	¥3,220,133	計	¥558,244

繰越金 ¥2,661,889

会計:那須優則(49年卒)、監査:森田光雄(46年卒)

次期事務局に期待して

現事務局長 安部 俊彦(46年卒)

昨年は木村 繁氏(28年卒)による「高橋正二先輩を偲ぶ」と題し、高橋正二第2代会長を回想されると共に当会の歩みもご丁寧に回顧して戴きました。さすが当会の生き辞引、木村先輩ならではの感服いたしました。

私、安部俊彦が土屋東一氏(35年卒)の後、事務局長をお受けしたのが平成3年のこと。実に18年間もやっていることに気づき愕然としました。学年幹事会でも指摘があった通り、ここ何年間活動らしい仕事もせず、間に合せに終始してきた事が会の低迷の一因であり、皆様に御迷惑をおかけしました。アメリカでオバマにチェンジ、日本では民主党にチェンジとなりました。本会も新会長の下、事務局を刷新し、ポジティブに会運営を立直す時です。意欲と時間の有る先輩方に任を返納し、手伝いに徹したいと考えております。長い間、事務局に携わった諸氏に感謝申し上げます。又、会員各位の皆様とは今後とも総会でお会い出来ます事を楽しみにしております。